

# #08 原因帰属

心理学@岐阜薬科大学2021

1

## メニュー

- 情動二要因説
- 逆プラシーボ効果

2

## ある自動車事故の話（上野, 1989）



- 運転中に突然「ブレーキが効かなくなった」とドライバ（死亡）が言い出し、電柱に衝突
- 大した外傷は見られず解剖
- 左半球に脳出血、但し、事故のショックではなく、事故に先立って起こっていたと推定
- 監察医の結論：脳出血により下肢に麻痺が生じたが、意識的には「ブレーキを踏んでいる」つもりだった

3

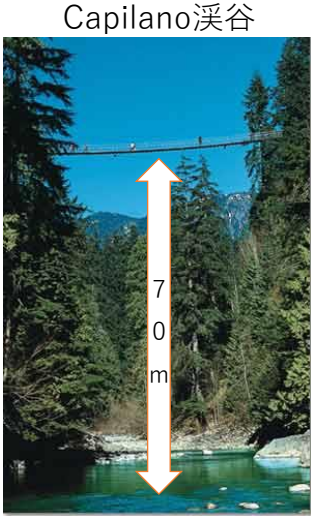
## 潜在的（implicit）とは？

- 行動の“真の”原因について自覚を伴わない状態（⇔顕在 explicit）
- 人は自分で思っているほど、自らの行動の本当の理由を知ってはいない
  - 例：見る目が変わる＝知識構造の変化（#01）
  - 例：“有益な経験や作用”＝プラシーボ効果を含む能動性（#03）
  - 例：記憶は事後情報や環境の影響を受ける（#01, #04）
  - 例：インチキする能力とそれを見抜く能力は進化の産物（#05）

4

# つり橋実験 (Dutton & Aron, 1974)

- 1. つり橋を渡る前  
→低恐怖条件
- 2. つり橋を渡っている途中  
→高恐怖条件



5

# つり橋効果

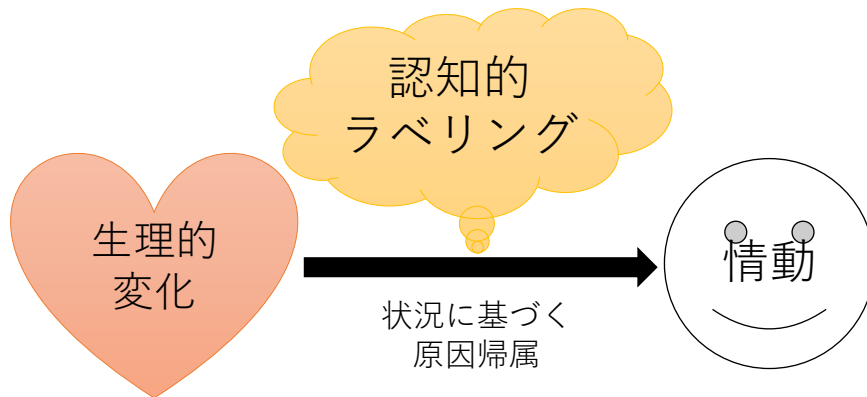
主題統覚検査  
(thematic apperception test)



	TATによる性的興奮 (点)	名刺受け取り	電話かけた
高恐怖条件	2.99/5	80%	65%
低恐怖条件	1.92/5	83%	37%

6

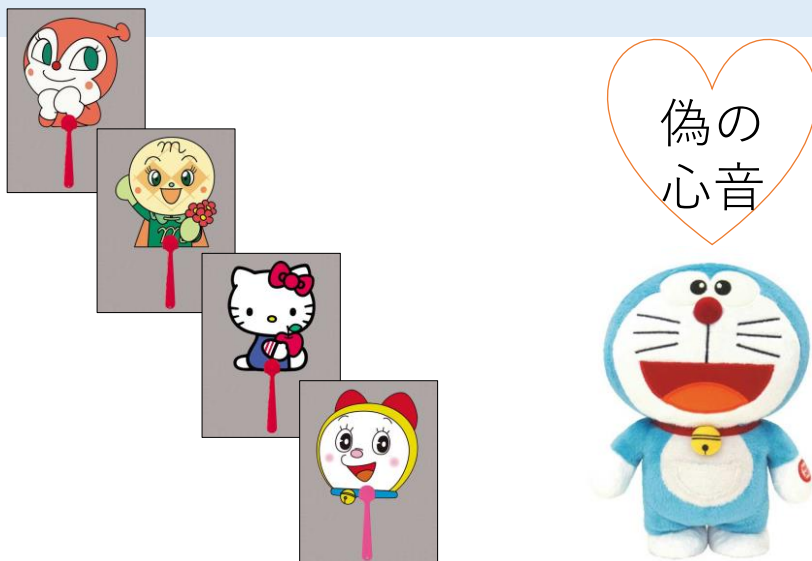
## 情動二要因説 (Schacter & Singer, 1962)



生理的变化のバリエーションは少ない

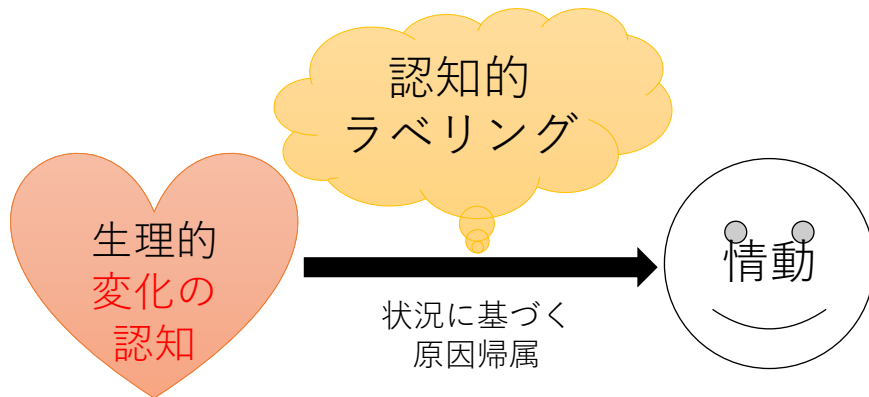
7

## 偽の心音実験 (Valins, 1966)



8

## 情動二要因説 (Schacter & Singer, 1962)



生理的変化のバリエーションは少ない

9

## 逆プラシーボ効果 (negative placebo effect)

- プラシーボ効果
  - 「この薬（偽薬）を飲むと寝付きが良くなる」→不眠症の症状が軽快する
- 逆プラシーボ効果
  - 「この薬を飲むと寝付きが悪くなる」→不眠症の症状が軽快する



10

# 不眠症患者の実験 (Storms & Nisbett, 1970)

- 不眠症の主要原因：就寝時に興奮状態（交感神経の活性化）に陥る
- 乳糖を固めた偽薬の副作用について、教示で群分け
  - 興奮副作用群：「生理的興奮を高める」「体温が上昇する」「ドキドキするかもしれない」
  - リラックス副作用群：「生理的興奮を鎮める」「寒く感じるかも」「リラックスさせる」
  - 偽薬なしの対照群

11

## 寝つくまでの時間と興奮状態

	興奮群	リラックス群	対照群
服用前就眠時間(分)	53.22	36.09	38.40
服用後就眠時間(分)	41.52	51.24	36.96
就眠時間の変化	-11.70	15.15	-1.44

逆プラシーボ効果

- 一方、生理的状态の認知にはプラシーボ効果
  - 興奮群：いつもよりやや興奮していた
  - リラックス群：いつもより鎮静気味だった

12

## 認知的ラベリングが結果を生む

- 興奮群の教示は「不眠症」の症状そのもの
  - 就寝時の興奮状態を「薬の副作用のせい」にできる
- リラックス群は「鎮静剤を飲んだ」のに相変わらずの興奮は存在する
  - 「いつもよりマシなはず」という「思い込み」は働いている
- 原因帰属の顕れ方が食い違う（行動と言動の乖離）
  - 無意識的な過程は「行動」に、意識的な過程は「言語報告」に

13

## カンニング実験 (Dienstbier & Munter, 1971)

- 偽薬と教示
  1. 興奮群：心拍数増加，発汗，ほてり，胃の緊張
  2. 倦怠群：あくび，瞬きの減少，目の疲労
- 薬が効く15分間，別の実験の「語彙力テスト」に協力
  - コンピュータで確実に読み取れるように，マークシートを整えさせた
  - 「書き直しはダメ」と言いながら，正解のシートも見せた
  - 実験者に電話が入り，部屋を離れる（カンニングの余地）
- 1つでも書き直した人の割合：興奮49.0% > 倦怠27.1%

14

## 罪の意識も認知次第

- （普通は）カンニングには緊張と生理的興奮が伴う
- 興奮群は，カンニング時の興奮を薬のせいにする
  - = 罪の意識の軽減
- 倦怠群は，同様の帰属ができない
  - = 罪の意識と戦う = カンニングの抑止力

15

## まとめ

- 自覚される情動は「生理的喚起（あるいはその認知）」と「認知的ラベリング（原因帰属）」の結果である
- ドキドキを薬のせいにする
  - 意識的な過程（言動）ではプラシーボ効果
  - 無意識的な過程（行動）では逆プラシーボ効果
    - 試験前にコーヒーを飲むと，カンニング率が高まっているかも？
- もっと広く，言語報告と行動は乖離する
  - 人を見極めるには，言葉よりも行動をよく見ることをオススメします

16